

2017年11月19日(日)朝10:10
11月第3聖餐共同主日礼拝式説教

主の降誕前第6、自由交歓会等
日本アライアンス庄原基督教会

説教題：仔羊の婚姻

聖書:ヨハネの黙示録 19章6～10節

＜口語訳＞

新約聖書405頁

ヨハネの黙示録 19章6～10節

＜新共同訳＞

新約聖書475頁

ヨハネの黙示録 19章6～10節

＜新改訳第3版＞

新約聖書498頁

ヨハネの黙示録19章6～10節

＜塚本訳＞

新約聖書817頁

主題:主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

- ◇ヨハネの黙示録は、1章1節、「イエス・キリストの黙示」とありますように、神の御子イエス・キリスト様が、天使を通して(1)、長老・使徒ヨハネに与えた「神の国到来の奥義」の黙示で、ローマ皇帝ドミティアヌス(81～96)時代に記録されたものと理解されています。
- ◇ヨハネ黙示録1章は、御子の再臨信仰と愛、2章～3章は、7つの教会への手紙、4～5章は、羔羊礼拝と大讚美、6～13章は、聖徒の戦い、天使と龍(悪魔・サタン)、獣との戦い、14章は、小羊への大讚美、神無視の人々への裁きと信仰者への忍耐の求め、15章は、金の怒りの鉢による神の裁き序曲、16章は、金の鉢の用意命令、腫物、血海、血水、太陽炎焼、獣の座の暗黒による裁き、ハルマゲドンでの龍(悪魔・サタン)と獣等と主なる神との決戦、バビロン滅亡預言で、17章は、大淫婦と権力者の癒着、その奥義、自滅と仔羊の勝利、18章は、バビロンの滅亡宣言と哀歌、19章1～5節は、天上の大群衆讚美・長老らの礼拝、天上の声です。

- ◇ヨハネ黙示録19章6～10節は、**天上での仔羊婚姻への花嫁の招き、天上の喜び**です。
- ◇「**仔羊の婚姻**」は、**神の國**においては男女の関係はなく、天使のような立場になりますので、これは、**神の仔羊なる主**との結びつきの比喩的表現で、地上においては、地上を支配するサタン(悪魔)、偽預言者などの反キリストに服することを強制される中に生きている者であったことが、**ヨハネの黙示録18章**までに描かれていたのです。
- ◇**ヨハネの黙示録19:1～10**をもって、「**神の仔羊**」と「**反キリストのサタン軍団**」との最後の戦いが始まりますので、その戦いの序論ということにもなるのです。
- ◇しかも、この「**仔羊の婚姻**」での「**花嫁**」も、「**招かれたお客**」も、「**神の教会**」ということに設定された比喩のもとで、**神**は預言を与えて下さっているのです。
- ◇**ヨハネ**は、これらの**黙示録の幻**を幽閉されたパトモス島で見たとされ、幽閉の年に幽閉をした**ローマ皇帝ドミティアヌス(81～96)**が暗殺されています、これも背景にあるようです。

本論；

◇本日、ヨハネ黙示録第19章6～10節から主の使信に思い・心をとめます。

◆黙示録19章6～10節；ヨハネは、天上での仔羊の婚姻と花嫁への招き、天上の喜びを見ました。

◇19:6～10；塚本訳◆仔羊の婚姻

「6 また私は多くの群衆の声のような、また大水の轟きのような、また烈しい雷の轟きのようなものを聞いた、曰く、ハレルヤ(今や)主なる我らの神、全能者が王となり給うた(から)！

7 (さあ、)喜ぼうではないか、小躍りしようではないか。彼に栄光を帰し奉ろうではないか。仔羊の婚姻の時が来、その(新)妻は(既に)身支度をしたのだから！

8 そして彼女は輝いた細布の衣を与えられて(これを)纏うた。——細布は聖徒達の義しい行為である。

9 するとかの天使が私に言う、「書け『幸福なる哉、仔羊の婚宴に招かれた者！』と。」また私に言う、「これらの(異象における凡ての)言は神の真実の言である。」

10 私はその足下に平伏して彼を拝もうとした。すると彼は(それを遮って)私に言う、「(いけない)するな！ 私はお前やイエスの証明を立てているお前の兄弟達と同輩である。(私を拝んではならぬ。)神を拝め。——イエスの証明とは預言の霊で(あり、お前も私も共にこれを有っている)ので(から)！」と、ヨハネは、天上の仔羊の婚姻と花嫁への招き、天上の喜びを見たのです。

◇6～8節；ヨハネは、「仔羊の婚姻の時が来」、「花嫁」は、「その(新)妻は(既に)身支度をし—細布は聖徒達の義しい行為である—」、そして、「ハレルヤ(今や)主なる 我らの神、全能者が王となり給うた(から)」、「(さあ、)喜ぼうではないか、小躍りしようではないか。彼に栄光を帰し奉ろうではないか」という「多くの群衆の声のような、また大水の轟きのような、また烈しい雷の轟きのようなもの」聴いたのでした。

⇒「大群衆」は、「大バビロン・大淫婦・大なる都・大きな碾臼」に代る「花嫁」を見ました。

- ⇒「仔羊の婚姻」での主役は、「花嫁であり、お客である教会」です。
- ⇒「大バビロン・大淫婦」は、「悪行、不品行と奢侈で地を汚した女性」でしたが、花嫁なる教会は「細布(聖徒達の義しい行為)」を着用した女性で、神は好対照な姿を示されます。
- ⇒「ハレルヤ」(6)では、「(今や)主なる 我らの神、全能者が王となり給うた」ことへのものですが、1節では、「救いと栄光と権能とは我らの神のものである」で、3節では、「彼女(大バビロン・大淫婦)の(焼かるる)煙は永遠より永遠に立ち上る」で、4節では、「二十四人の長老と四つの活物とが平伏し、玉座に坐し給う神を拝んで言うた」ものでした。
- ⇒血の報復が、天上のある殉教者の訴え祈りであったことを背景にもった「ハレルヤ」でした。
- ⇒「神の御国の真の平和」、ヨハネの黙示録21章の新天新地に結びつく「ハレルヤ」は、6節の「仔羊の婚姻」で、「大バビロン・反キリスト」支配に代って、「(今や)主なる 我らの神、全能者が王となり給うた」で完成へ向かいます！
- ⇒「讚美歌182番」はOS師のお勧めです。

◇9節；天使は、「書け『幸福なる哉、仔羊の婚宴に招かれた者！』」、「これらの(異象における凡ての)言は神の真実の言である」と、ヨハネに「神の預言のことば」を書くよう命じました。

⇒「大バビロン・大淫婦の繁栄」は、「悪行、癒着、奢侈」であり、これに与った「楽器演奏者、細工人、碾臼を引く者、燈火」は喪失し、「サタンの繁栄文化・企業社会」は崩壊、利益優先で生きてきた人々を嘆きのどん底に叩き落とす姿を見せられました。

⇒「大帝国ローマ・バビロンの繁栄・人間の利益優先社会」が、失った讚美の豊かさを迫害という悪行に苦しんだ大群衆に明け渡した時でも、ありました。自分たちの権力、権勢によらず、主の力と栄光にお頼りした祈りの結果でした。

⇒地上で、「大バビロン・大淫婦」の「悪行、癒着、奢侈」に苦しんだ「神の教会の殉教者たち」は、「仔羊の婚姻」への招待で、「神の真実のみことば」を「天使」とともに告白したかったと思いますし、異邦人の教会も、思いたいです。

- ◇10節;ヨハネは、「**天使**」をつい拝もうとして、ひれ伏したのですが、「**天使**」から「**(いけない)するな**」、「**(私を拜んではならぬ)、神を拜め**」と、**命じられ**、「**イエスの証明**」は、「**預言の霊**」であり、「**お前(ヨハネ)も**」、「**私(天使)も有っている**」と、命令の理由を伝えているのです。
- ⇒OS師は、主イエス様が**預言されたこと**を**あかしする「預言の霊・核心」**を**神のしもべ**に託しておられるとの理解を示されました。
- ⇒聖書日課の**詩篇45篇のコラの子らの愛の歌・王の結婚の祝歌**で、**花婿なるメシヤ的王**を祝福し、また、**王妃の着飾った姿**を描きつつ、「**彼(王・花婿)の前にひれ伏せ**」と語り、**王国が保たれ、祝福されること**を歌います。
- ⇒教会も、**花婿なる神の仔羊の婚姻**は、まだまだなので、**忍耐は必要**ですが、「**仔羊の婚姻**」に招かれた時、「**着るもの(神が賜った信仰の義)**」、「**神を讃える讚美**」が、いつでもできるように「**共同の礼拝、個々人の礼拝**」での訓練に与ってほしいと、願います。
- ⇒**詩篇の詩人、ダビデ、コラのこら**は、いのちの**危機迫る**中で、**神讚美、神依存**をしています。

結論；

- ◇神は、変わらない愛と思いやりの神です。
- ◇ヨハネの黙示録は、1章1節、「イエス・キリストの黙示」で、神の御子イエス・キリスト様が、天使を通し(1)、長老・使徒ヨハネに与えた「神の国到来の奥義」の黙示で、ローマ皇帝ドミティアヌス(81～96)時代に記録と理解。
- ◇ヨハネ黙示録1章は、御子の再臨信仰と愛、2章～3章は、7つの教会への手紙、4～5章は、羔羊礼拝と大讚美、6～13章は、聖徒の戦い、天使と龍(悪魔・サタン)、獣との戦い、14章は、小羊への大讚美、神無視の人々への裁きと信仰者への忍耐の求め、15章は、金の怒りの鉢による神の裁き序曲、16章は、金の鉢の用意命令、腫物、血海、血水、太陽炎焼、獣の座の暗黒による裁き、ハルマゲドンでの龍(悪魔・サタン)と獣等と主なる神との決戦、バビロン滅亡預言で、17章は、大淫婦と権力者の癒着、その奥義、自滅と仔羊の勝利、18章は、バビロンの滅亡宣言と哀歌、19章1～5節は、天上の大群衆讚美・長老らの礼拝、天上の声です。

- ◇ヨハネ黙示録19章6～10節は、天上での仔羊婚姻への花嫁の招き、天上の喜びです。
- ⇒ヨハネの黙示録19:6～10は、「大群衆」が「先の大きな声の讚美」に勝る「大水の音激しい雷鳴のような声」をもって、「(今や)主なる我らの神、全能者が王となり給うた」と「ハレルヤ」讚美をささげますが、今回は、長老・4つの生き物の礼拝、讚美、天上の天使の讚美はなく、「神の仔羊の婚姻」に招かれた「花嫁・客人」なる教会への呼び掛けです。
- ⇒この「讚美する大群衆」の多くは、「殉教者」で、主に血の報復を求めた人々です。
- ⇒異邦人である私たち地上の教会は、神信仰による義の細布を着て、「天上の神の仔羊の婚姻」に招かれる礼拝をささげつづけたいと、願います。
- ⇒その中でも、神讚美は、「神の仔羊の婚姻」に最も相応しいもので、内容は違え、1～10節の短い区分で、「ハレルヤ讚歌」が、4回(1、3、4、6節)もあるのです。
- ⇒「神讚美」の鍵は、「神の救いへの感謝」の有無で、「神の聖霊」の贈り物を楽しむ心です。